

後肥

特別  
A5  
6673  
127  
早稲田大学図書館



安永七戌戌年賀

熊本

益城



伊勢海老色

如阜

巾一とておの

口祝

歳祝

何れも只静さや竹分の長

旭泉

世外ありふりや

何れも鳥上明けて梅吐き

桃圃

筆よりてふり向く窓や初時

曙雪

其むとわきく見えや福寿中

李石

如方少し子孫よく解り休

鷺夕

世の世に飽ぬこころや昔時

笠雨

も何れも戴いて空をりり

和扇

初よりりや何れもとここ

里道

初より初時い初りり福寿至

里白

初冬の早ふ年夏に汎い初 互別  
 中川尾藤此酔ふ年の名ひ初 榎曉  
 さう八聖に控ひくしめんふ茶初 可悠  
 試る年尾此ふゆりやふふふ 芙尺  
 門松も名と早ふりし初り初 梨雪  
 重くも控ふや花の名こころ 文吹  
 ちん川と明る障子よ初り初長 吏雀  
 初冬風よ花のを柳の 尹仲  
 何とふふふふふふや初は名 亜文  
 初冬風やとれと名つく定の梅 潮巴  
 歯固めやせん茶葉の精々茶 指童

考言のしと性説とて

春のあつととれ

徐来

能心時に起あしとて

酉年尾

曙雪

賑ふ少や口初もとて年尾市  
 杜よ梅屋よ梅は子咲 李石  
 是る事よと海を名乳母とて 乃房  
 何とあしははと名は名 馨夕  
 川定の事とてと浅く月少柳 旭泉  
 山くく吹てととととと 梨雪  
 年ふと押あつとととと 筆雨  
 招竹の事人よととととと 榎曉

朝四つ一睡いのそくけて 亜文  
 之れより河を帆の終 里道  
 子殿入の母子つゝ此花ん 権的  
 二 ちかるとかぬてしよぶさるゝ 可憐  
 一 几山の林下よ家の十ツ斗り 可白  
 栞抄み終のくもりくゝ 尹仲  
 らんどもか顔ハ顔てしお終り 未花  
 清くや月九川くまの鳴ぬの 木舟  
 下乃に院の松の珍とあす 久吹  
 ふふくくルを空にくゝも空 和扇  
 さ川くくるとんをさかふる月のま 栞巻  
 傾城がやとてくゝ白紙 某久

喰ふくくはあをてをくゝてままよれ 海巴

古下略

好まのゆ木如 中々

ちと口を切くゝ 徐来  
 玉を海川 栞巻

尾

